



アカチャンホンポ

イトーヨーカドー

Loft



SEIBU SOGO



セブン銀行

ヨークベニマル



(株)セブン&アイ・ホールディングス

グループ会社

(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)イトーヨーカ堂、(株)そごう・西武、(株)ヨークベニマル、  
(株)ヨークマート、(株)セブン&アイ・フードシステムズ、(株)セブン銀行、  
(株)セブン・カードサービス、(株)セブン&アイ・ネットメディア、(株)ニッセンホールディングス、  
(株)オッシュマンズ・ジャパン、(株)ロフト、(株)赤ちゃん本舗、ほか

株式会社

セブン-イレブン・ジャパン

お問い合わせ先

株式会社 セブン&アイ・ホールディングス  
総務部 資源・リサイクル

〒102-8452 東京都千代田区二番町8番地8  
TEL. 03-6238-3704 FAX. 03-6238-3491  
<http://www.sej.co.jp/social/>



印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷、VOC(揮発性有機化合物)ゼロの植物油インキ、FSC®認証紙、見やすくまがいにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

お願い

本冊子をご不要になった際は、再資源化のため、お住まいの地域のルールでリサイクルいただきますようお願いいたします。



株式会社

セブン-イレブン・ジャパン

# 社会とともに。

## 社会・環境への取り組み 2014-2015





# セブン-イレブンがめざす ソーシャル・リレーション

社会との つながり

どんなに時代が変わっても、つねにお客さまのそばで、  
お客さまのご期待に応え続けるために――

セブン-イレブンは、社会のさまざまなニーズに耳を澄ませ、  
お客さま一人ひとりに「近くて便利」と感じていただける  
お店づくりをしています。



環境負荷の低減

▶ P12



持続可能な社会

▶ P18



くらしの拠点

▶ P4



食の安全・安心

▶ P8

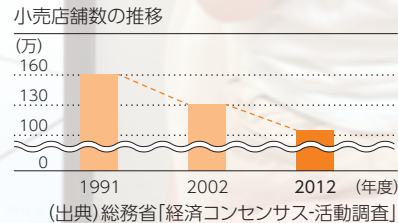


# あらゆるお客さまに “便利さ”を提供するために――



## 社会的背景 年々、小売店の数が減少しています。

商店街の衰退や後継者の不足などによって、日本の小売店の数が減少し続けています。それに伴ってご自宅からお店までの距離が遠くなるお客さまが増え、不便を感じている方々が急増しています。



お弁当やお惣菜などをお届けするサービスを提供しています。

## 店内ほぼすべての商品をお届けできる 「セブンらくらくお届け便」

お届けサービス「セブンらくらくお届け便」は、重い水やお米などを持ち帰るのが困難なご高齢の方や子育て中の方、病気やけがで外出できない方などをはじめ、多くのお客さまにご利用いただいています。お届けには、超小型電気自動車「コムス」や電動アシスト自転車などを利用し、CO<sub>2</sub>や大気汚染物質の排出を抑えるなど環境負荷の低減に努めています。超小型電気自動車「コムス」は約800台(2014年9月末現在)運用しています。



超小型電気自動車「コムス」

電動アシスト自転車

## 栄養バランスに配慮したお食事をお届けする「セブンミール」

お食事お届けサービス「セブンミール」は、栄養バランスに配慮したお食事や店頭で人気の商品をお届けするサービスです。管理栄養士監修の「日替り弁当」や「お惣菜セット」をはじめとする多彩な商品をお届けし、1回500円以上のご注文でお届け料は無料です。ご高齢の方や働く女性、健康を気にする方などにご利用いただいています。



「地域の拠点」として  
24時間さまざまなニーズにお応えしています。

いつでも、どこでもより便利にお買い物ができるお店へ



セブン&アイグループは、お客さまにより「近くて便利」を実感していただけるよう、「オムニチャンネル」\*の実現に向けて取り組んでいます。「オムニチャンネル」とは、お店とネットの垣根を越えてお客さまに「いつでも」「どこでも」欲しい商品をご注文いただき、「必要な時に」「どこの

お店でも」商品を受け取れるというサービスです。現在、セブン-イレブンのお店では、グループ会社の各サイトで購入した商品、累計300万アイテム以上(2014年5月末現在)を受け取ることができます。

※「オムニ」=あらゆる、「チャンネル」=お客さまとの接点

住民票や印鑑登録証明書も「マルチコピー機」で出力

「マルチコピー機」は、コピーやデジカメなどのプリント機能のほかに、チケットの購入・申込み、行政サービスにも対応しています。住民票の写し・印鑑登録証明書については87の自治体(2014年7月末現在)と連携しており、全国のセブン-イレブンで受け取りが可能です。

「マルチコピー機」で出力できる行政サービス\*

- 住民票の写し
- 戸籍証明書
- 戸籍附票の写し
- 住民票記載事項証明書

※自治体によりご利用いただけるサービスは異なります。



- 印鑑登録証明書
- 税の証明書

多様なニーズに対応するATM

お店には、地域の方々にいつでもご利用いただけるセブン銀行のATMを設置しています。すべてのATMに視覚障がいのあるお客さまにご利用いただける「音声ガイダンスサービス」や、識別しやすい色づかいの取引画面を導入することで、お客さまの多様なニーズに対応しています。



2013年カラーユニバーサルデザイン認証取得

※カラーユニバーサルデザイン認証は、銀行など預貯金取扱提携金融機関および証券会社のお取引画面(ご利用時間・手数料などのご案内を除く)について取得しています。

高速インターネット接続を利用できる「セブンスポット」

「セブンスポット」は、Wi-Fi(無線LAN)を活用した高速インターネットへ無料で接続できる公共無線LANサービスです。全国約15,700店(2014年9月末現在)に設置されており、「生活インフラ」の一端としてご利用いただけます。



「音声ガイダンスサービス」を搭載

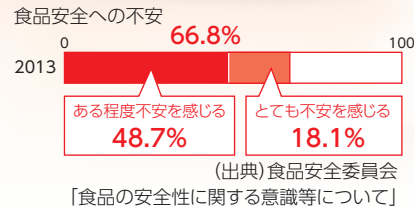


# 毎日、安全でおいしい食事をお届けするために――



## 社会的背景 消費者の約7割が食品に対して「不安を感じる」と答えています。

内閣府の食品安全委員会が2013年8月に実施した「食品の安全性に関する意識等について」によれば、食品安全について「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」との回答の合計は66.8%でした。また、食品購入時に欲しい情報として、ほとんどの回答者が原料産地などの「基本情報」を選んでいきます。



原料産地から工場、物流、お店まで一元管理するサプライチェーンマネジメントを整えています。

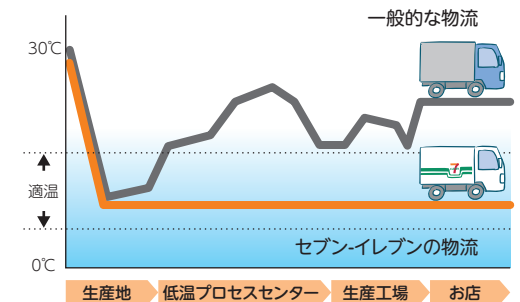
## 商品がどこで、どのようにつくられたかを確認する「レシピマスターシステム」



セブン-イレブンでは、どの工場、どのような原料が、どのくらい使用されているのかを確認できる「レシピマスターシステム」を運用し、原料産地や加工方法、管理状況などをデータベースで管理しています。また、お店で販売している商品も原料までさかのぼって履歴を確認することができます。

## 一貫して適度な温度を維持する「コールドチェーン」

新鮮な野菜のおいしさをお客さまにお届けするために、サンドイッチやサラダなどに使用している野菜は、収穫直後から低温保管し、輸送(庫内)・加工(工場内)・販売(お店)まで一貫して最適な温度(加熱処理しない葉物類は10℃以下、果菜類は15℃以下)を維持しています。



食の安全・安心を守るために  
さまざまな取り組みを実施しています。

### アレルギー情報を お弁当などのラベルに見やすく表示

セブン-イレブンは、食品衛生法に基づいて、商品にアレルギー物質となる食品を表示しています。お弁当、お惣菜、パン、デザートなどのオリジナル商品については、表示が義務化されている7品目に加え、アレルギー症状が懸念される20品目についても表示しています。お弁当の表示ラベルは、2014年2月より裏面から表面への表記に切り替え、お客さまが購入時に確認しやすくなりました。また、プライベートブランドのセブンプレミアムも同様に、表示文字を大きくし、読みやすく、わかりやすくしました。



表示ラベルを表面に切り替え

拡大

名称 弁当  
原材料名 鶏胸肉(国産米使用)、牛カルビ焼き(米田産小麦使用)、鶏油ダレ、ごま入りもやし小松菜人参ナムル、ごま、かつお節、塩、砂糖(加工糖)、調味料(アミノ酸)、カラメル色素、グリシン、香料、油脂の一部に小麦・卵・セラチン・りんごを含む



### 店内で調理している揚げ物・フランクには 体にやさしい油を使用

店内調理の揚げ物・フランクには、高オレイン酸キャノーラ油を約70%含んだオリジナルブレンド油を使用しています。このオリジナルブレンド油は、油特有のニオイが少なく、素材の味を引き立てるほか、トランス脂肪酸が少ないため体にやさしい油です。

### 味や品質にこだわったプライベートブランド 「セブンプレミアム」「セブンゴールド」

一つひとつの味・品質にこだわりながらもお求めやすい価格の「セブンプレミアム」と、より品質を高め、専門店にも負けない味を追求した「セブンゴールド」。安全・安心な商品をお届けするために原料調達から商品開発、品質管理まで一貫した体制で商品づくりを行っています。



### えさにこだわった新鮮たまご

お店で販売している「逸品こだわりたまご(4個入り・6個入り)」は、雛を孵化(ふか)させてから出荷までのすべての工程で品質が管理されています。また、鶏の飼料に魚粉を使用することで、卵に含まれるDHA・ビタミンEを高めています。

### パンなどに含まれる トランス脂肪酸を低減

セブン-イレブンは、心臓疾患のリスクを高めるといわれるトランス脂肪酸の低減を2005年から推進しています。オリジナルパンに使われるフライ油、練り込み油脂を低トランス化するなど、取引先と協力して独自の取り組みを続けています。

### セブン-イレブン専用工場の 約140項目にわたる安全基準

セブン-イレブンの専用工場では、宇宙食の安全性を確保するために開発された食品の衛生管理手法「HACCP」をもとに独自の安全基準を策定しています。現在も、約140項目にわたる基準が守られているかを定期的にチェックしており、生産工場



の品質管理レベルは年々向上しています。

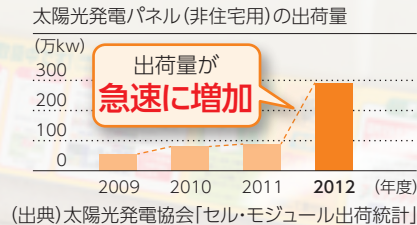


# 限りある資源を大切にするために——



## 社会的背景 “節電”への意識が高まっています。

東日本大震災以降、ご家庭だけでなく、企業も“節電”への意識が高まっています。対策の一環として、太陽光や風力、地熱などの自然エネルギーの使用が注目を集めており、とくに太陽光発電パネルの出荷量は、2011年度から2012年度にかけて急速に伸びています。

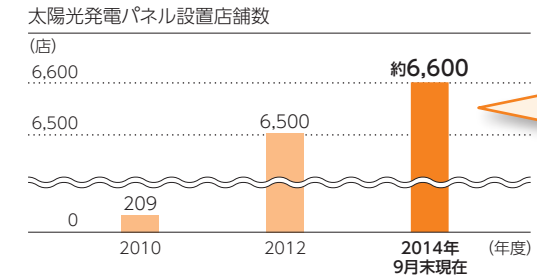


出荷量が急速に増加

セブン-イレブンのお店ではさまざまな省エネ設備を導入しています。

## 積極的に太陽光発電を利用

環境問題に積極的に取り組むため、セブン-イレブンは再生可能エネルギーの有効活用として太陽光発電パネルの設置を進めており、お店では、太陽光発電パネルによって発電された電力を使用しています。太陽光発電パネル設置店舗数は約6,600店(2014年9月末現在)に拡大しています。



太陽光発電パネル設置店舗が拡大中

## 排熱を利用して給湯

お店では、サンドイッチやサラダのおいしさを保つため、チルドの温度帯(5℃)で商品を陳列していますが、2009年から、その冷蔵設備の室外機の排熱を利用して、お店で使用するお湯を排熱給湯器で沸かしています。現在、排熱給湯器は約4,400台(2014年9月末現在)設置されており、電力の使用量削減につながっています。



排熱給湯器

約4,400台設置 (2014年9月末現在)

消費電力の少ないLED照明の導入を進めています。

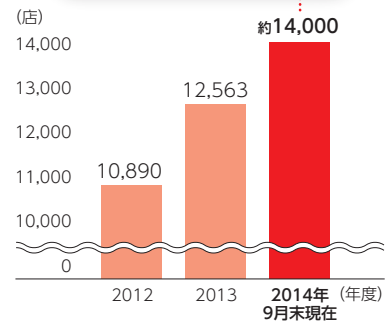
### LED照明の導入で大幅に電力使用量を削減

セブン-イレブンでは、2008年からLED照明の導入を開始しており、2011年9月からはLED照明を標準仕様とし、店頭看板やサインポール、店内照明に使用しています。また、2014年には店内の照明の電気使用量をさらに約50%削減できる新仕様のLED照明を導入しています。

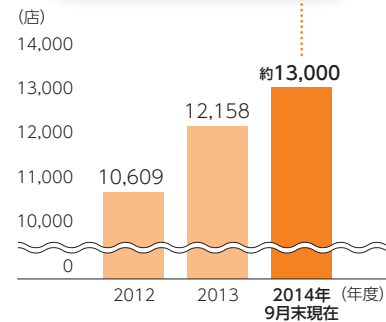
LED照明設置店舗の推移



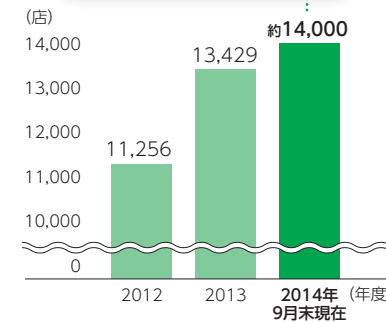
約14,000店舗



約13,000店舗

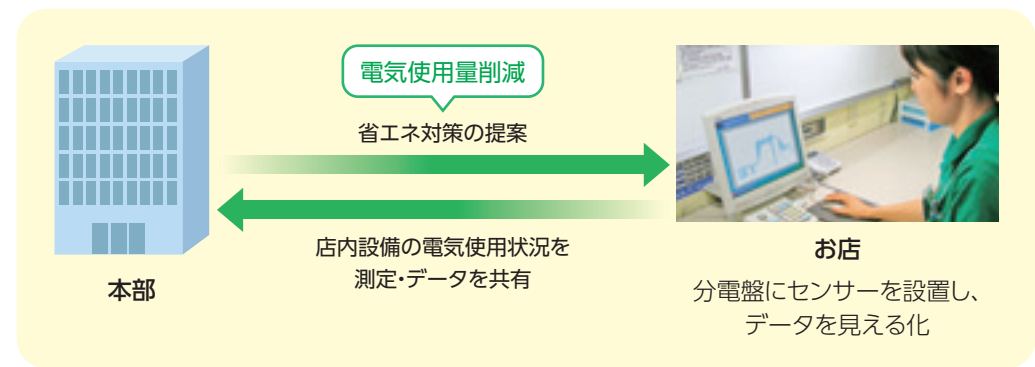


約14,000店舗



### 「スマートセンサー」で“電気の見える化”

電気がお店のどの設備で、いつ、どれだけ使われたかを“見える化”する「スマートセンサー」を約16,500店(2014年9月末現在)に導入しています。このスマートセンサーを分電盤に取り付けることで電気使用量をリアルタイムで確認でき、節電対策に活かしています。



### 環境にやさしい木造建築のお店を出店

木造建築のお店は、一般的な鉄骨づくり比べて資源調達時から建設時までのCO<sub>2</sub>排出量が少ないという利点があるうえ、解体時においても産業廃棄物を削減できます。そこでセブン-イレブンでは、環境にやさしいお店として2009年度から木造建築のお店を出店してきました。北海道に約140店(2014年9月末現在)の木造建築のお店を出店しており、今後も拡大していく予定です。



建設中の木造建築のお店



地球環境と企業活動の調和をめざして  
さまざまな取り組みを実施しています。



### リサイクルされたペットボトルを容器に使用

セブン-イレブンでは、2014年4月から一部のサラダ容器の原料にリサイクルされた再生素材(ペットボトル)を使用しています。この取り組みによって年間2,576トンのCO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでいます。また、再生素材が含まれているリサイクルペットフィルムを「セブンプレミアム」のボディソープなどの詰め替え用商品\*の容器に使用し、再商品化しています。このペットフィルムには、セブン-イレブンをはじめ、セブン&アイグループ4社の店頭で回収されたペットボトルも含まれています。

### 環境配慮型車両の導入によって CO<sub>2</sub>排出量を削減

配送に使用するトラックをハイブリッド車に入れ替えています。この車は減速時に発生するエネルギーを回収し、それを発進・加速時のモーター駆動に二次利用できるため、燃費向上やCO<sub>2</sub>排出量の削減などに効果があります。配送車両約4,500台のうちハイブリッド車は約400台(2014年9月末現在)です。ハイブリッド車を500台までに拡大することを2014年度の目標にしています。また、エネルギーロスを低減する「エコタイヤ\*1」や廃棄物削減に貢献する「更生タイヤ\*2」の導入も促進しています。



※1 転がり抵抗を低め(=よく転がる)、低燃費性能に優れたタイヤ  
※2 摩耗したタイヤの基礎部分を活かし、路面に接するゴム部分を新しくしたタイヤ

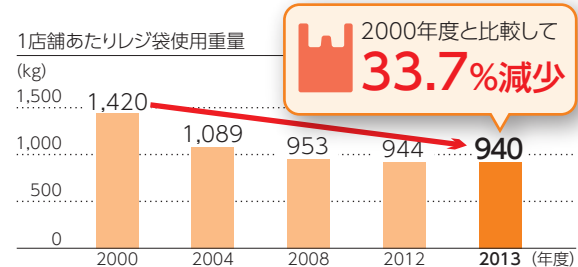
### 割り箸の素材に 環境にやさしい「竹」を使用

セブン-イレブンでは、お弁当などを購入されたお客さまにお渡しする割り箸の素材を白樺から竹に変更しました。竹はほかの木材よりも成長が早く、伐採後も地下茎から新しい竹が生える性質をもっていることから持続的生産が可能です。



### お客さまのご協力のもと レジ袋の使用量を削減

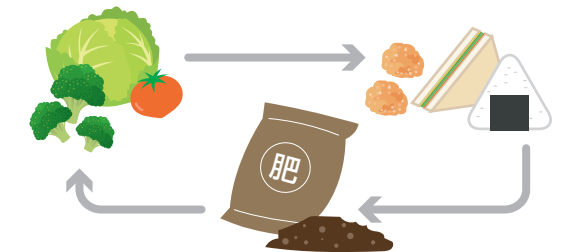
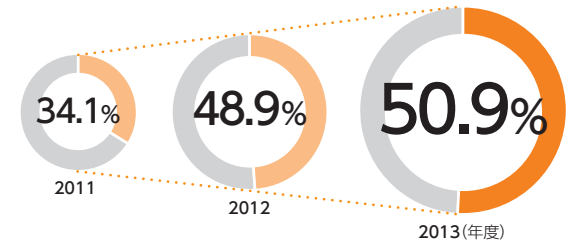
2013年度のセブン-イレブン1店舗あたりのレジ袋使用重量は940.8kgで、2000年度と比較すると33.7%の削減となりました。これは、レジ袋の使用を辞退してくださるお客さまが増えたことに加え、レジ袋を薄くしたことが主な要因です。



### 「食品リサイクル」を推進

お店では、さまざまなデータをもとに仮説を立てて、商品を仕入れています。それでもやむなく販売期限切れ商品が発生してしまうことがあるため、販売期限が切れた商品を堆肥や飼料などにリサイクルする取り組みを進めています。その結果、2013年度の食品リサイクル率は50.9%となりました。この取り組みは全国23都府県(2014年3月末現在)に広がっています。

食品リサイクル率の推移





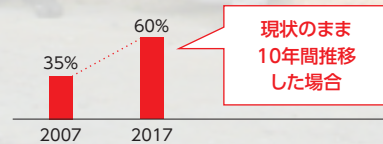
# 日本の豊かな自然環境を 次世代に継承していくために——



## 社会的背景 日本の森林に「高齢樹木が増えている」ことが課題となっています。

日本は、国土の約3分の2が森林という世界有数の“森林国”です。樹木は20年を過ぎるとCO<sub>2</sub>を酸素に変える機能が衰えてしまいますが、近年では50年以上経った「高齢樹木」が増えすぎてしまっていることが課題となっています。今後、計画的な森林整備で若い樹木を増やしていくことが求められています。

人工林中の高齢樹木が占める割合



(出典) 林野庁「森林・林業統計要覧2012」

※「セブン&アイの森」は「セブンの森」に名称変更しました。

植樹をはじめ、下刈りや手作業による間伐など計画的な森林整備活動に取り組んでいます。

## 森林を育て、木質材の利用を促進する森林保全プロジェクト「セブンの森」

地球温暖化対策をはじめ、生物多様性や森林環境の保全のために、セブン-イレブン記念財団と協働で各地域で森林保全プロジェクト「セブンの森」づくりに取り組んでいます。このプロジェクトは、植樹に限定することなく、健全な森林づくりに向けて間伐や下刈りなどの森林整備を行う活動です。全国各地で行政や森林組合、NPO法人などと協定を結び、14地域で加盟店オーナーやセブン-イレブン社員が参加して活動を行うとともに、間伐した木材からセブン-イレブン店頭募金箱を製作しています。この店頭募金箱は2014年7月から順次設置されています。また、間伐材が含まれた紙製飲料容器を使用している商品をセブン-イレブンなどで販売しています。



間伐材が含まれた紙製飲料容器

## 皆さまからの募金で環境活動を支援

セブン-イレブン店頭募金箱にお客さまから寄せられた募金は、セブン-イレブン記念財団を通して地域の環境保護・保全に取り組んでいる環境市民団体への助成金として活用されています。2014年度は、応募総数379件のなかから253件に1億4,951万5,421円の助成が決定しました。



間伐材を使って1つつ手づくりされた募金箱



次世代の育成を支援するために  
職場体験などを受け入れています。

### 小学校のなかに仮想の街をつくる 「品川スチューデントシティ」に協力

セブン-イレブンでは、2003年から東京都品川区と公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本とが共催している「品川スチューデントシティ」に出店しています。小学校のなかにつくられた仮想の街で、さまざまな企業のお店や区役所、銀行などで小学生が就業体験できます。2013年度は2,646人の小学生が参加し、接客・販売を通して仕事の楽しさや難しさを体験しました。



### 小・中学校の子どもを対象に 職場体験や出前授業を実施

お店では、小・中学生の職場体験の受け入れや出前授業など、各地域で教育現場に協力しています。職場体験ではコンビニエンスストアの仕事を通じて、挨拶の大切さやルールを守ることの重要性を伝えています。2013年にはのべ6,000店以上が職場体験の受け入れを行うなど「青少年の健全育成」に取り組んでいます。



地域の暮らしを支える活動にも  
力を入れています。

### 「安全・安心なまちづくり」に貢献する セーフティステーション活動

セブン-イレブンでは、女性や子どもの駆け込み対応やご高齢の方の保護を行っています。2013年度には、ご高齢の方を全国3,844店で保護し、警察やご家族に連絡しました。これからも積極的に「安全・安心なまちづくり」につながる役割を担っていきます。



### 全国で地域清掃を実施

加盟店オーナーや従業員、セブン-イレブン社員は、地域社会の一員として、道路・公園・駅周辺・河川敷などの地域の清掃活動に定期的に取り組んでいます。



### 災害時にも地域に協力

セブン-イレブンでは、自治体と協力して災害が発生した場合に必要な物資を被災地の方々に提供するための体制を整えています。また、33都道府県の自治体でセブン-イレブンのお店を「災害時帰宅支援ステーション」として登録しているほか、災害時の支援協定を結んでいる自治体と物資供給に関する定期訓練を実施。災害発生時には、セブン-イレブンの店内で募金活動も行い、被災地を支援しています。



## 会社概要

名称	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
代表取締役会長 最高経営責任者(CEO)	鈴木 敏文
代表取締役社長 最高執行責任者(COO)	井阪 隆一
設立	1973年11月20日
資本金	172億円
従業員数	6,567人 (2014年2月末)
チェーン全店売上高(国内)	3兆7,812億6千7百万円 (2014年2月期)
店舗数(国内)	17,009店 (2014年9月末)

## 環境方針

### 1. 事業活動に対する責任

私たちは事業活動の中で、環境保護、ロス削減、資源の有効利用・再資源化、省エネルギー、廃棄物の削減、環境汚染の予防につとめ、企業の責任を果たします。

### 2. お客さまとの協力と情報公開

私たちはお客さまの声に耳を傾け、お客さまとともに環境保護につとめ、その活動の結果を文書化し、広くお客さまや社員に情報公開します。

### 3. 地域社会との協力・社会貢献

私たちは地域とともに環境について考え、環境分野の社会貢献活動を継続的に行い、企業市民としての役割を果たします。

### 4. 責任と自覚

私たちは、この環境方針にもとづき、企業や社会の中でそれぞれの立場で環境問題について考え、自分の役割を自覚して行動するようつとめます。

### 5. 環境目標の設定と見直し

私たちはこうした取り組みが年ごとに改善されるようにつとめ、環境に関連する法規制や私たちが同意した要求事項を遵守し、企業活動の分野ごとに自主的目標を定め、それを年ごとに見直し継続的に改善します。

2013年5月29日  
株式会社セブン-イレブン・ジャパン  
代表取締役社長 井阪 隆一